



入

院

時

○原籍校の教員にお願いしたいこと

- 本人や保護者と入院中の学習の相談をし、必要に応じて連携会議等を開く。

入院時は、本人や保護者にとって心身ともに不安を抱える時期です。また、治療がどのように進んでいくかも不確定な部分が多く、学習についてあまり具体的なことは決められないかもしれません。しかし、入院中も体調に合わせた学習ができることを伝えておくことは大切です。具体的には、本人が入院する病院に院内学級がある場合には、入院中のみ転校して学習ができること、そして入院する病院に院内学級がない時には、プリント学習等、学校としてできる範囲(保護者に説明する前に、管理職も含め、校内でできることを検討しておく)のことを伝えておくといいです。いずれにしても、具体的な方法は焦らずに決めるようにし、入院してからある程度治療の見通しが立ってからでもよいです。「いつでも相談にのれること」「復学してくるのを待っていること」「次回いつ(あまり間隔を空けず一週間後程度がよい)連絡をしてよいかの確認」などを伝え、本人や保護者が学習に取り組める状態になるのを静かに見守りましょう。

また、医療者と連携していくことは治療中に学習を進める上では大切です。そのため、必要に応じて医療者と協力して情報共有をするための連携会議等を開くことも大切です。

- 本人や保護者と入院中の連絡方法を相談し、決めておく。

入院中の連絡方法を確認しておくといいです。ただし、遠方の病院への入院等、家族にとっては精神的にも時間的にも厳しいことが予想されます。連絡方法を知りたいとだけ伝えるのではなく「復学の体制をきちんと整え、いつ退院してもいいように待っている。」と伝え、理解を得るとよいです。

- 本人のプライバシーへの配慮をする。

病気に対する情報については、その取扱いに十分配慮することが大切です。学級の仲間や第三者に伝える時には、必ず本人や保護者の了解を取り、本人が知っていること以外の情報を伝えないようにしましょう。

- 原籍校に在籍している兄弟姉妹の様子に気を配る。

兄弟姉妹にとっても、自分の兄弟姉妹の入院は精神的負担です。寂しさや不安で気持ちが乱れるのは当然です。そうした気持ちの乱れは、徐々に大きくなり、身体や心の異変となって出てくるものです。そうした変化に早く気づき、兄弟姉妹の寂しさや不安に伝えてあげましょう。